

2019年9月17日

## 今後の作業に向けて

## 検証委員会作業チーム

## 【これまでのまとめ】

- 1 当初の2日間、不自由展の会場内は、比較的平穏だった。しかし、SNSによる画像拡散等によって、深刻な電凸や脅迫等につながった。
- 2 脅迫等による安全上の理由からやむなく中止したが、海外アーティスト等は、広義の検閲と考えており、再開しない場合は、今後のあいちトリエンナーレへの出品ボイコット等につながりかねない。
- 3 また、今回の事案は、各地の美術館やメディア等に無意識のうちの自主規制や、いわゆる「内なる検閲」を広めかねないリスクをはらむ。
- 4 なお、今回の展示に対する批判は、主に「平和の少女像」及び大浦氏、中垣氏の作品に対するものだった。また、特に公立美術館で展示することの妥当性に関する抗議もあった。
- 5 しかし、いずれの作品も専門家によるキュレーションと丁寧な作品解説、そして適切な展示方法がとられることによって、より理解を得られ、より安全に展示しえたと思われる。

## 【今後の検討課題】

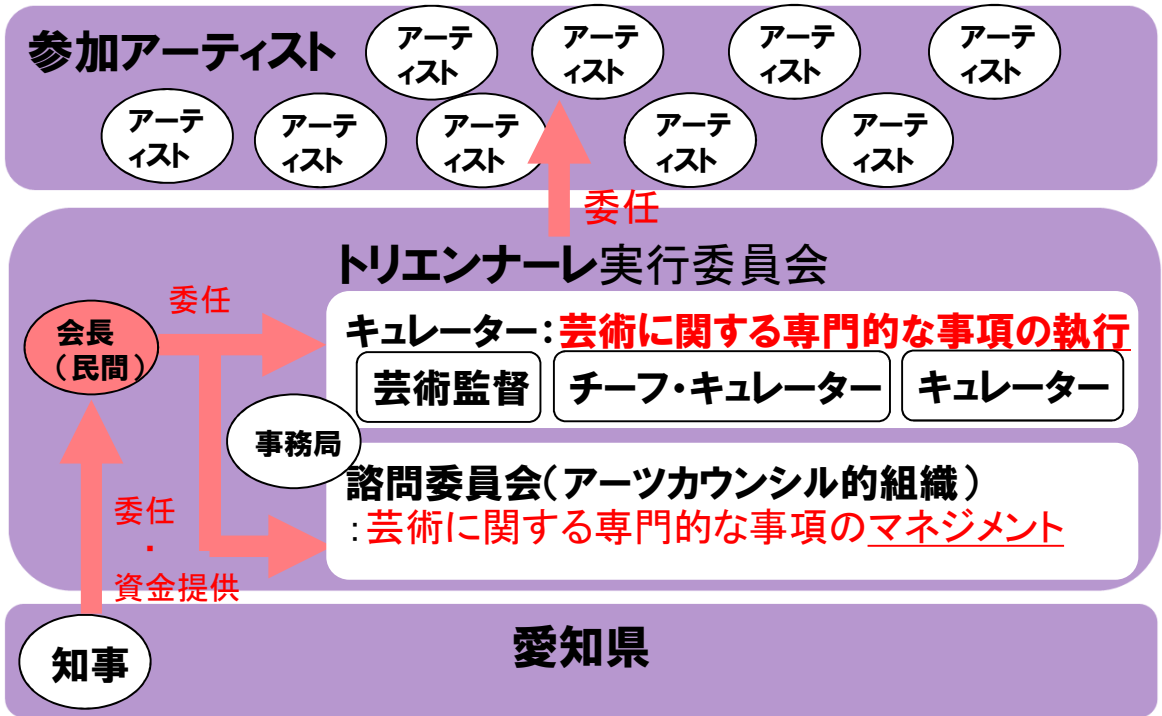
- 6 5の状況が確保できなかった背景には、準備の時間の乏しさ、企画段階からのキュレーターチームの不参加、芸術監督への権限の集中(あるいは芸術監督に対する牽制、チェック体制の不備)、出品作家とのやりとりを含む交渉体制の不備等様々な要因があったと思われるが、さらに検証が必要。
- 7 再び、こうした事態を招かないためには、あいちトリエンナーレのガバナンスのあり方を見直す必要がある。
  - －会長を補佐する体制の検討
  - －芸術祭にも『アーツカウンシル』等の仕組みを導入すべき
- 8 また、県立美術館としての主体的な表現の自由の権利を具体的に保障する仕組みも今後の検討課題。

## 今回の事案が示唆する美術館やメディア等へのリスク

		内なる検閲	伝統的な検閲
検閲する側	主体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同調圧力や不利益の示唆</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 政府</li> </ul>
	方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無意識のうちの自主規制 (内なる検閲 (Internal Censorship))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あからさまな事前検閲</li> </ul>
糾弾する側	主体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無数の相手</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 政治的団体</li> </ul>
	方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ メールや電話など目に見えない、かつ、 凄惨な抗議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 街宣車や暴力行為による現地での妨害行為</li> </ul>

# 「あいちトリエンナーレ」の理想的なマネジメント構造

A案… 実行委員会に「諮問委員会（アーツカウンシル的組織）」を設置



B案… 「諮問委員会」と県設置の「アーツカウンシル」を兼務

